

御製 五首

平成二十五年

あんずの里

赤き萼がくの反りつつ咲ける白き花のあんず愛でつつ妹と歩みぬ

大山だいせんロイヤルホテルにて

大山を果たてに望む窓近く体かはしつついはつばめ飛ぶ

水俣を訪れて

患ひの元知れずして病みをりし人らの苦しみいかばかりなりし

皇居にて 二首

年毎に東京の空暖かく紅葉もみぢば赤く暮れに残れり

被災地の冬の暮らしはいかならむ陽ひの暖かき東京にゐて

御製 五首

平成二十五年

あんずの里

赤き^{がく}萼の反りつつ咲ける白き花のあんず愛でつつ妹と歩みぬ

天皇皇后両陛下は、本年四月、長野県を御訪問になり、千曲市のあんずの里スケッチパークにおいて、あんずの花を御覧になった。この御製は、その時の情景をお詠みになったもの。

大山^{だいせん}ロイヤルホテルにて

大山を果たてに望む窓近く体かはしつっいはつばめ飛ぶ

天皇皇后両陛下は、本年五月、全国植樹祭御臨場のため鳥取県を御訪問になり、伯耆町の大山ロイヤルホテルにお泊りになった。この御製は、大山を望むホテルのお部屋の窓近くを、イワツバメが体をかかわしながら飛ぶ光景を御覧になり、お詠みになったもの。

水俣を訪れて

患ひの元知れずして病みをりし人らの苦しみいかばかりなりし

天皇皇后両陛下は、本年十月の全国豊かな海づくり大会御臨席のための熊本県行幸啓の際、海上歓迎行事御臨席及び御放流のため水俣市を御訪問になり、その折、水俣病患者とお会いになった。この御製は、原因がわからないまま長年病気に苦しんできた水俣病患者にお心をお寄せになり、お詠みになったもの。

皇居にて 二首

年毎に東京の空暖かく紅葉もみぢば赤く暮れに残れり

この御製は、東京の氣候が年毎に暖かくなり、年末になっても皇居の紅葉がまだ赤く残っている様子をお詠みになったもの。

被災地の冬の暮らしはいかならむ陽の暖かき東京にみて

天皇皇后両陛下は、一昨年及び昨年に引き続き本年も東日本大震災の被災地を御訪問になり、被災者をお見舞いになった。この御製は、被災地において厳しい冬を過ごす人々に思いを寄せられ、お詠みになったもの。

第六十四回全国植樹祭

鳥取県

大山の遠くそびゆる会場に人らと集ひて苗植ゑにけり

第六十八回国民体育大会

東京都

車椅子の人とならびて炬火を持つ人走り行く日暮れの会場

第三十三回全国豊かな海づくり大会

熊本県

あまたなる人の患ひのもととなりし海にむかひて魚放ちけり

皇后陛下御歌 三首

平成二十五年

打ち水

花はな槐ゑんじゆ花なき枝葉そよぎいで水打ちし庭に風立ち来たる

遠野

何処いづこにか流れのあらむ尋たづね来し遠野静かに水の音する

演奏会

左手ゆんでなるピアノの音色ねいろ耳みみ朶たにありて灯ひともしそめし町を帰りぬ

皇后陛下御歌 三首

平成二十五年

打ち水

花はな槐ゑんじゆ花なき枝葉そよぎいで水打ちし庭に風立ち来たる

御所のお庭には、春に花を咲かせるハナエンジュが植えられてい
る。この御歌は、暑い夏の日、風が、花のなくなつたハナエンジュ
の枝葉を揺らしながら、打ち水をしたお庭をそよぎ渡つていった涼
しげな情景をお詠みになつたもの。

遠野

何処いづこにか流れのあらむ尋たづね来し遠野静かに水の音する

本年七月、天皇后陛下は、東日本大震災に伴う被災地御訪問の
ため、岩手県の大船渡市、陸前高田市等を御訪問になつたが、それに
先立ち、後方支援で大きな役割を果たしている内陸の遠野市をまづお
訪ねになつた。その折、静かな水の音を耳にされ、川の流れがどこか
にあるのではとお感じになりお詠みになつた御歌。

演奏会

左手ゆんでなるピアノの音色ねいろ耳じだ朶だにありて灯ひともしそめし町を帰りぬ

本年十一月、舘野泉氏の演奏を御鑑賞になつた。この御歌は、左手の
みで奏でられる美しいピアノの音色の余韻を耳に残されたまま、灯りが
ともり始めた夕暮れの町をお帰りになつたときのことをお詠みになつて
いる。